



2023年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2023/10/06 現在

科目Ⅱ

（財務分析、コーポレート・ファイナンス）

第1問（30点）

問1 B 問2 D 問3 B 問4 A 問5 A 問6 D 問7 A 問8 B
問9 C 問10 D 問11 C 問12 D 問13 C 問14 B 問15 A

第2問（10点）

問1 B 問2 B 問3 C 問4 C 問5 D

第3問（12点）

I

問1 C 問2 B 問3 D

II

問1 E 問2 B 問3 D

第4問（24点）

(1)

① B ② E ③ J ④ G
ア D イ C ウ E エ B

(2)

⑤ B ⑥ G ⑦ I

(3)

⑧ J ⑨ G ⑩ C
オ D カ D キ B ク C

(4)

⑪ A ⑫ J ⑬ F
ケ D コ C サ D

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第5問（24点）

I

問1 A 問2 A 問3 C 問4 D 問5 E 問6 E

II

問1 B 問2 C 問3 D 問4 A 問5 B 問6 C

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

2023証券アナリスト1次試験（秋）

「科目Ⅱ 財務分析／コーポレート・ファイナンス」

科目Ⅱの出題については、大問5問で構成され、第1問から第4問が財務分析（財務会計と財務諸表分析）、第5問がコーポレート・ファイナンスであった。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、15問の出題であった。損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、有価証券、棚卸資産、減価償却、退職給付会計、税効果会計、連結会計は頻出論点であり、正答が得られやすい内容であった。一方、財務諸表監査、セグメント情報、会計上の変更、収益認識基準については、かなり難易度の高い内容であった。

第2問の個別計算問題は、5問の出題であった。株主資本、200%定率法、課税所得、総資本事業利益率（ROA）は基本的な内容であったが、のれんの減損損失は難問であった。

第3問の総合計算問題は、6問の出題であった。Ⅰリース会計(3問)、Ⅱ外貨換算会計(3問)について出題された。Ⅰのリース会計については、最初に貸手の購入価額が判明していることに気づけたか否かがポイントであった。内容そのものは、支払利息の計算や、ファイナンス・リースとオペレーティング・リースの会計処理の相違であり、基本的なレベルであった。Ⅱの外貨換算会計については、問1、問2は、二取引基準に関する計算であり、商品仕入れに関する外貨建取引と買掛金に関する代金決済取引を区別する必要があった。問3は、一取引基準と二取引基準では、期間損益は異なるとしても、通算した損益は等しくなることに気づければ、解答をすぐに選択できたはずである。

第4問の分析総合問題は、ROE、百分率損益計算書、損益分岐点分析、安全性分析と定番の内容であり、高得点の望める内容であった。

第5問のコーポレート・ファイナンスは、Ⅰコーポレート・ファイナンス全般（6問）、Ⅱ企業価値評価に関する一連の問題（6問）であった。Ⅰのコーポレート・ファイナンス全般については、問3のメイク・オア・バイ、問6の現金比率はかなり細かい論点であった。Ⅱでは、節税効果、CAPM、株主資本コスト、WACC、ターミナル・バリュー、企業価値が出題され、全体的に標準的なレベルであった。

以上

TAC証券アナリスト講師室